

石器から鉄器へ —鉄器は弥生社会をどう変えたのか—

禰宜田佳男 (大阪府立弥生文化博物館)

はじめに

世界史的に珍しい道具の変化 石器時代→青銅器時代→鉄器時代

1 石器と鉄器

(1) 石器とは
種類

特定の石材が列島内の一定の範囲で流通

(2) 鉄器とは
種類

大陸→北部九州→中四国→近畿→東日本という広域の範囲を流通

2 石器から鉄器へ 2000年頃までの考え方

(1) 鉄器の普及

弥生時代早期(前期)から鉄器は使用され、後期に鉄器化した
根拠は石器の消滅による(鉄器が多数出土したからではない)
鉄器が出土しないことの説明

鉄器は再利用された、錆びてなくなった→「見えざる鉄器」

(2) 鉄器化による弥生時代社会の評価

農具の鉄器化により可耕地が拡大し、生産力を増大させた
畿内地域に前方後円墳を出現させる基盤が弥生時代後期に出来上がった

3 石器から鉄器へ 近年の考え方

(1) 鉄器の普及

弥生時代前期後葉から鉄器は使用された(弥生時代の前半期に鉄器はない)
弥生時代後期に石器は残存する→鉄器の普及は順調ではなかった
鉄器の再利用技術(鉄片を鍛接する技術)はない、錆びて無くなることはない
→「見えざる鉄器」という考え方は有効ではない

(2) 鉄器化による弥生時代社会の評価

弥生時代後期に農具は鉄器化しない
畿内地域は北部九州地域に比べ、鉄器出土量は少なく、製作技術も低い
→弥生時代に畿内地域の首長が鉄器流通を掌握し豊富な鉄器を背景に前方後円墳
を出現させたという論は考古学的に実証されていない。畿内地域は先進的とい
うのは先入観。

4 石器から鉄器へ 近畿における近年の調査研究

(1) 兵庫県五斗長垣内(ゴッカイ)遺跡の発掘調査

鉄器製作遺跡の発掘
「簡易」な鉄器製作技術(炉跡・鍛冶具)→調査時に認識できていなかった

(2) 近畿において鉄器製作遺跡の「再発掘」

鉄器の出土は少ない
近畿一円で鉄器製作はおこなわれていた

5 石器から鉄器へ 吉備地域の様相

- (1) 石器組成の変化
弥生時代中期から後期
- (2) 鉄器製作遺構
津寺一軒屋遺跡
百間川原尾島遺跡
- (3) 鉄器製作遺構の「再発掘」
神明遺跡
刑部遺跡

6 石器から鉄器へ 社会はどう変わったか

- (1) 大陸を起点とした広域流通網の形成
大陸と間接的につながる
鉄だけではなく情報も伝播→東アジア世界の政治的動向も波及する
- (2) 広域流通網を維持する機能の創出
経済的な関係が政治的な関係の構築
瀬戸内ルートが機能しないことがあったのではないか

7 弥生時代後期以降の社会の動き

- (1) 弥生時代中期から後期へ
拠点集落の衰退
いわゆる「聞く銅鐸の」埋納
従来 鉄器化→社会が変化
現在 気候の悪化(寒冷化)
私見 東アジアの動乱(前漢から後漢へ)
- (2) 弥生時代後期
吉備地域では副葬風習の開始 楯築墳丘墓など
西日本各地域に首長のシンボルが創出
畿内地域に鉄器の出土は少ない、副葬品の出土も少ない
→ほかの地域と同様に首長は成長していた
- (3) 弥生時代後期から終末期
倭国乱(2世紀後半)
東アジア世界の混乱
北部九州地域の地位が相対的に低下→畿内地域の地位が上昇

おわりに

大和政権成立のキャスティングボードを握った吉備勢力

【主要参考文献】

- 石村智 2008「威信財交換と儀礼」『弥生時代の考古学 7 権力と儀礼』同成社
都出比呂志 1967「農具鉄器化二つの画期」『考古学研究』第13巻第3号 考古学研究会
寺沢薫 2000『王権誕生』講談社
禰宜田佳男 2019『農耕文化の形成と近畿弥生社会』同成社
福永伸哉 2001『邪馬台国から大和政権へ』大阪大学出版会
北條芳隆 2000「前方後円墳と倭王権」『古墳時代像を見なおす』青木書店
松木武彦 1996「日本列島の国家形成」『国家の形成』三一書房
村上恭通 1998『倭人と鉄の考古学』青木書店

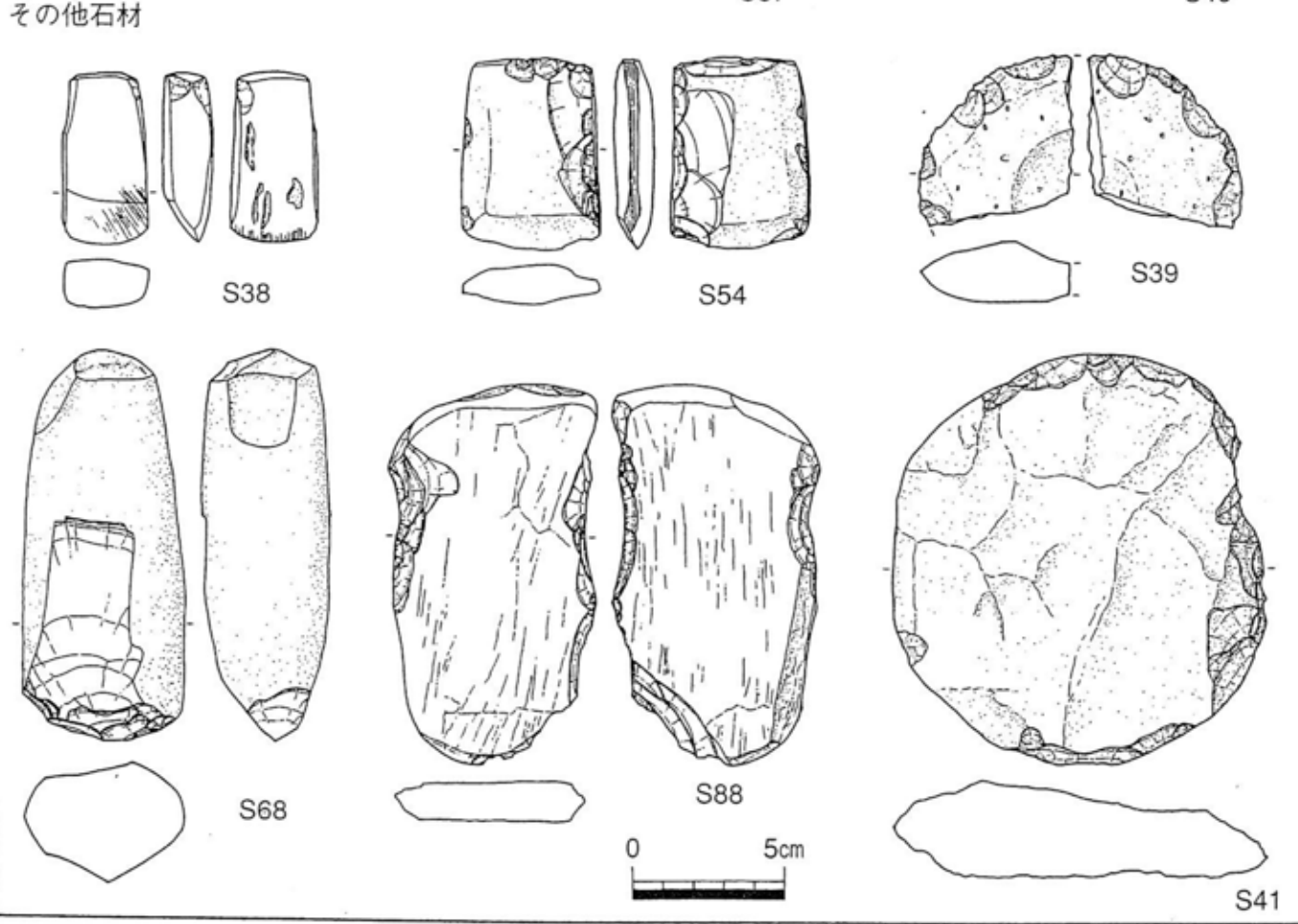
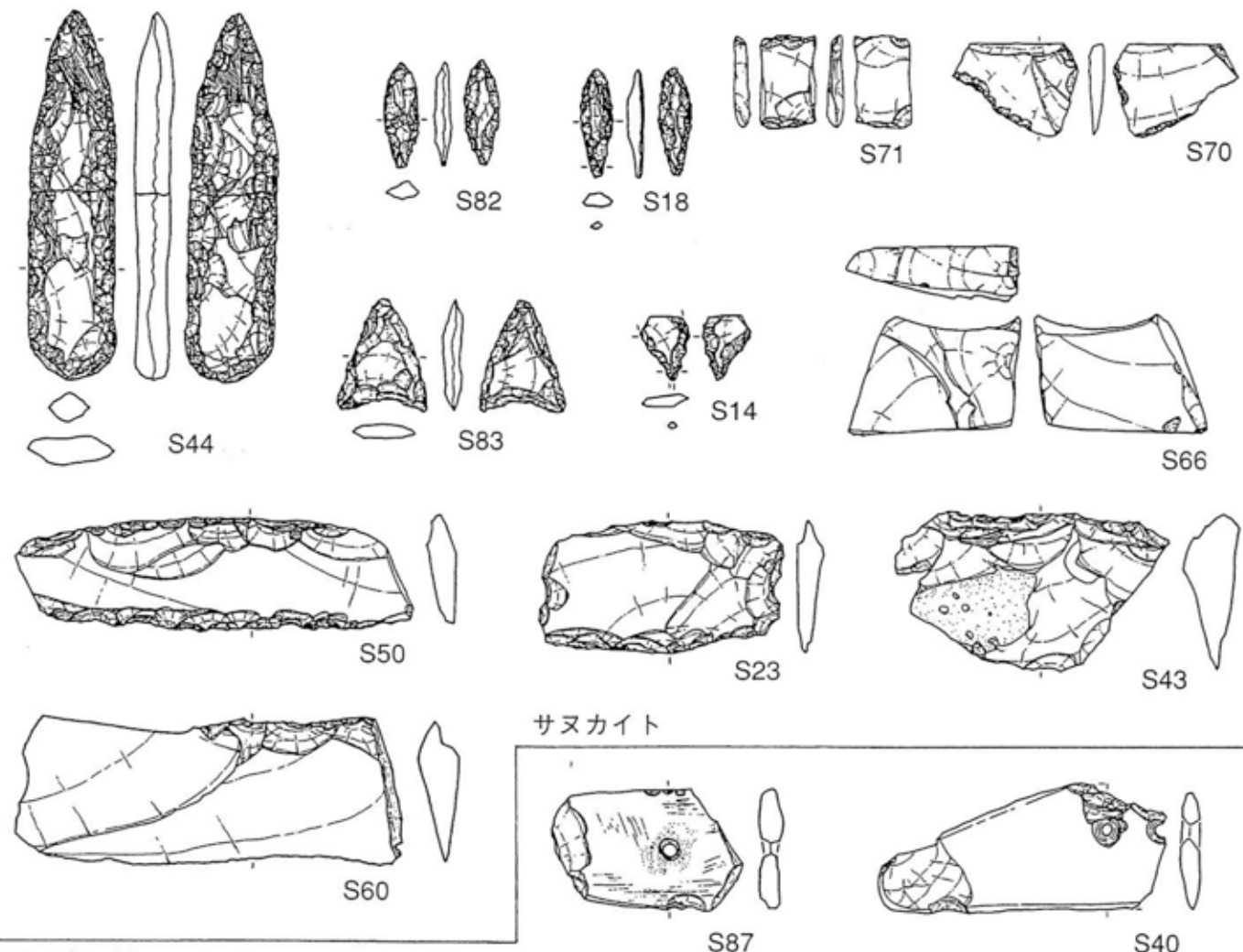


図272 赤田東遺跡の石器組成

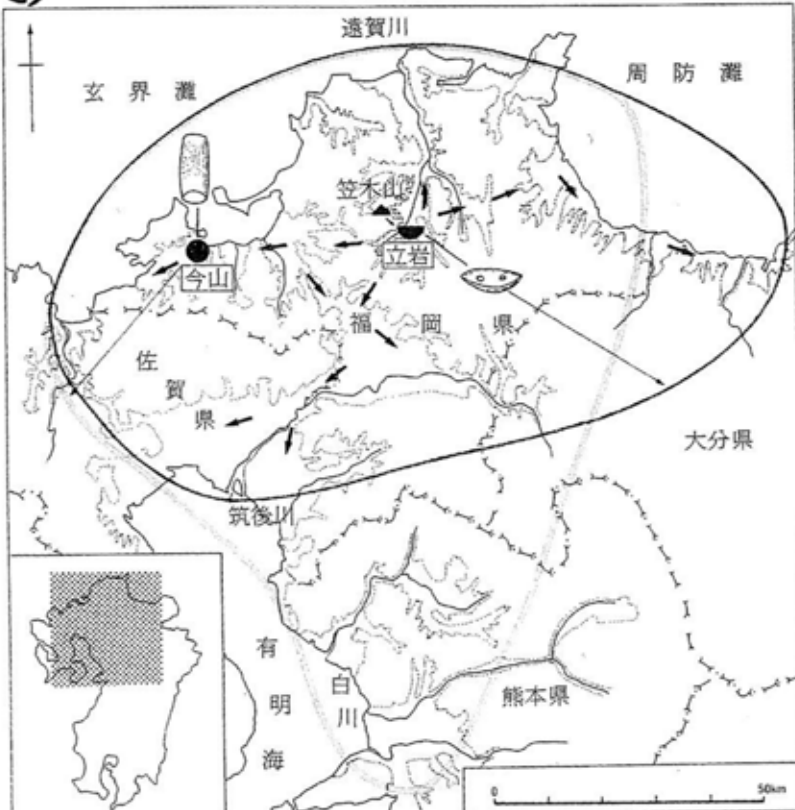
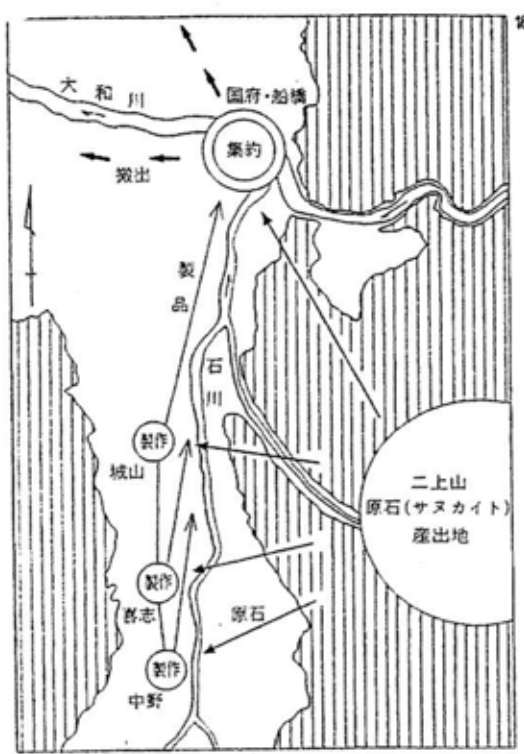


図1 今山産石斧及び立岩産石包丁分布範囲図 (下條 1989 b)



(下條作成)

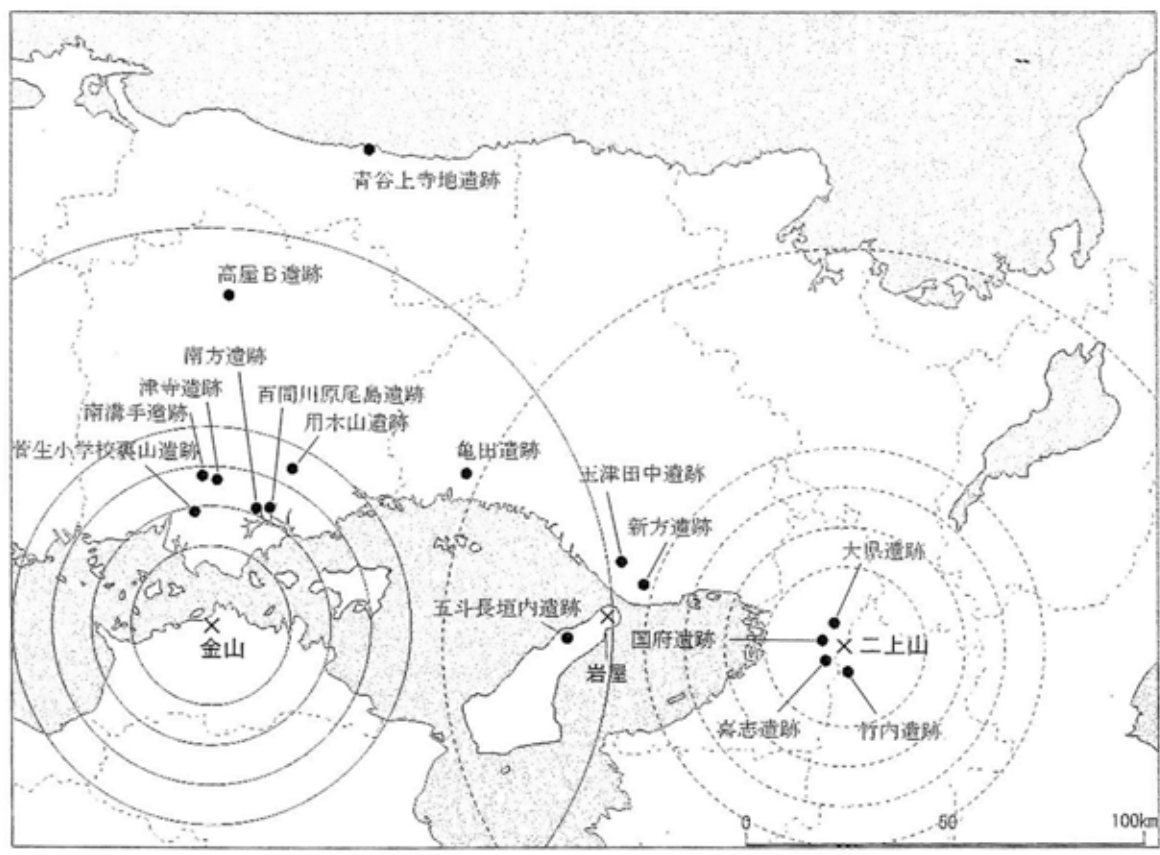


図108 3つのサヌカイト原産地とおもな弥生遺跡分布図 (綿宜田 2010 b に加筆して作成)

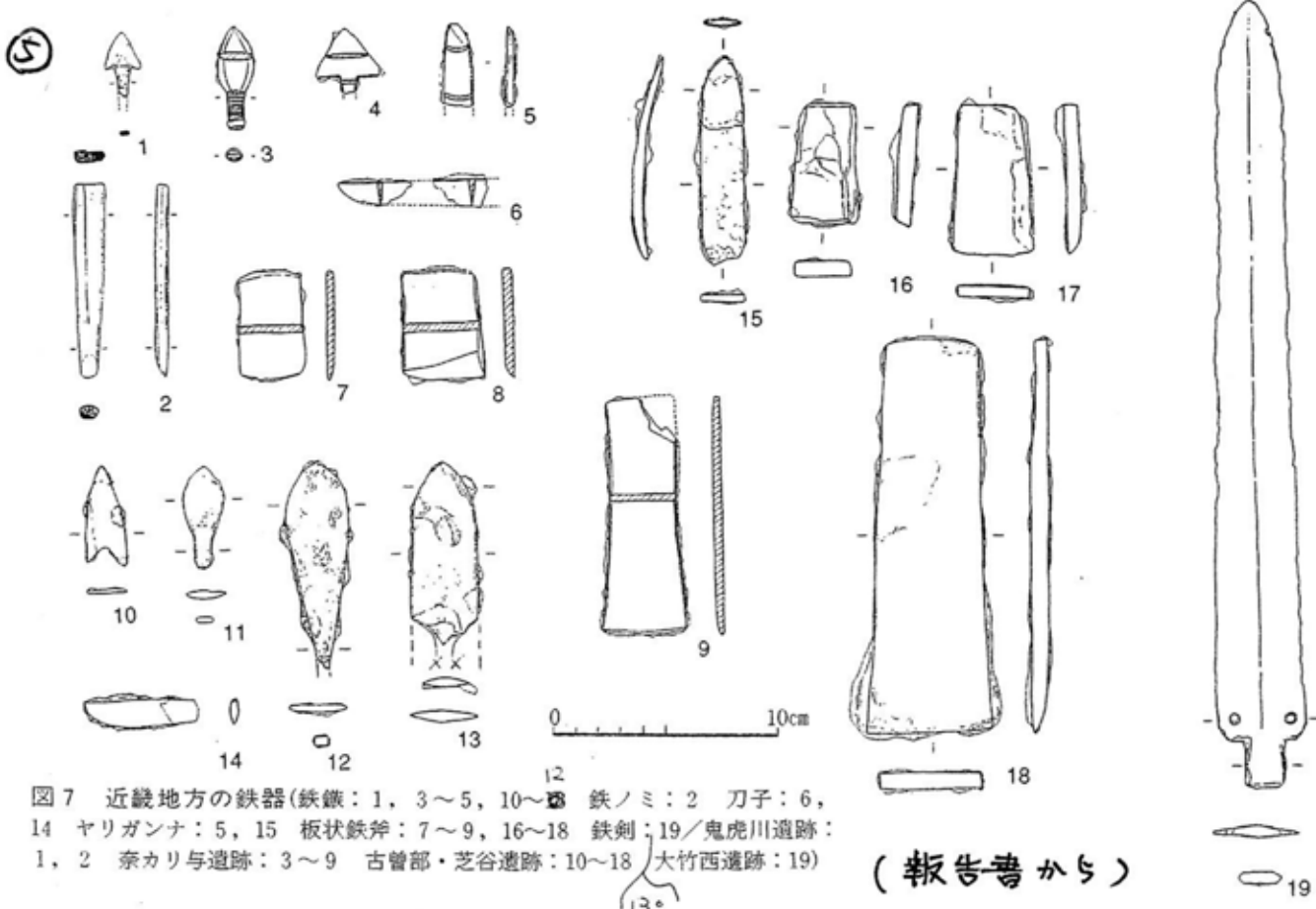
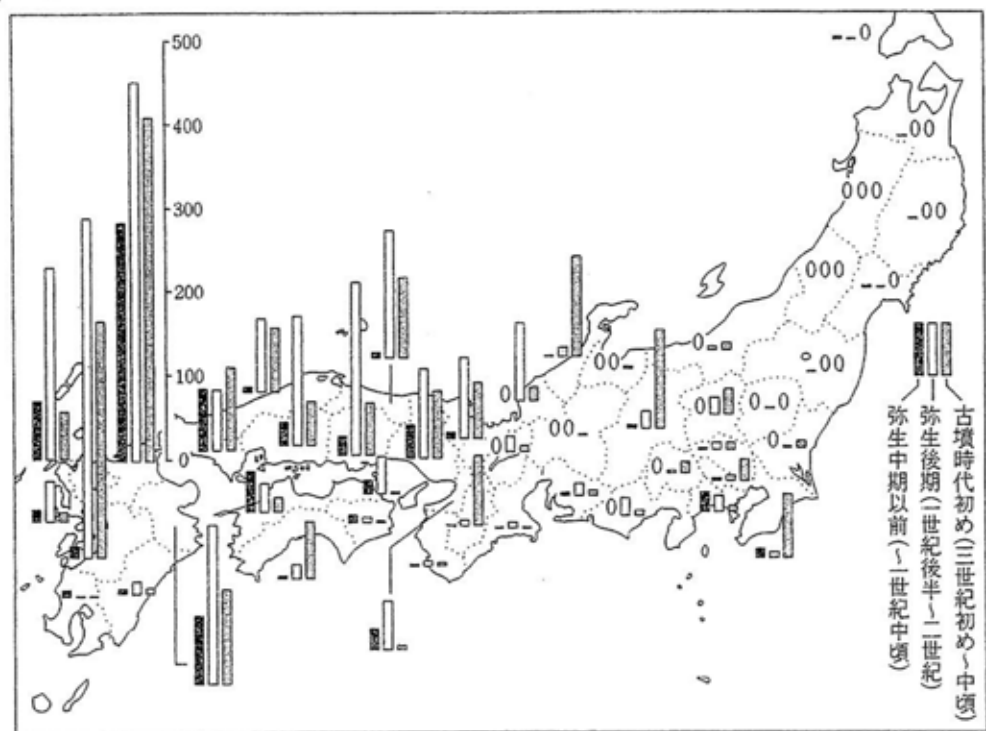


図7 近畿地方の鉄器(鉄鏃: 1, 3~5, 10~12 鉄ノミ: 2 刀子: 6, 14 ヤリガンナ: 5, 15 板状鉄斧: 7~9, 16~18 鉄剣: 19/鬼虎川遺跡: 1, 2 奈カリ与遺跡: 3~9 古曾部・芝谷遺跡: 10~18 大竹西遺跡: 19)

(報告書から)

⑧



県別にみた鉄器の出土数 鉄器は弥生時代を通じて圧倒的に北部九州に集中する。3世紀初めにヤマト王権が誕生してもいぜんこの傾向は変わらないが、東日本にも普及しはじめる。この直後、3世紀後葉以降の定型化した前方後円墳からの大量の鉄器副葬によって九州と近畿の鉄器量は逆転する(川越哲志『弥生時代鉄器総覧(2000年)』を一部時期補正して作成)

(寺沢作成)



図77 東・北・南・部までの鉄器広域流通ネットワーク復元図

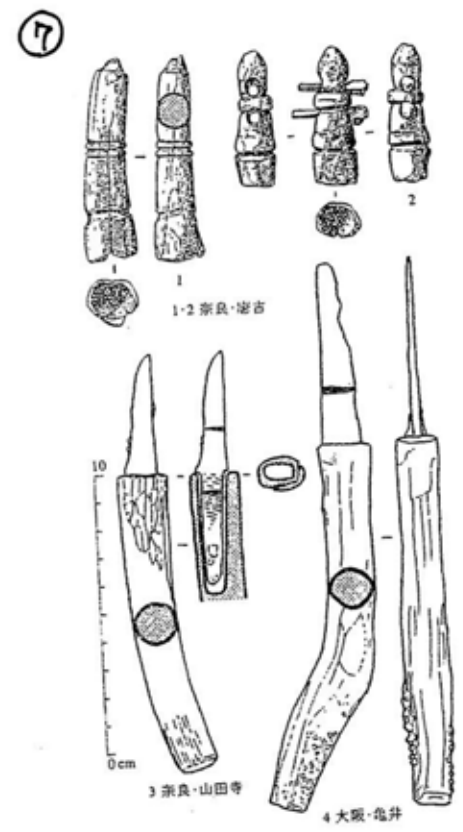


図9 奈良県唐古遺跡の「刀子柄」(1)、「弓筈形角製品」(2)と鉄刀子を装着した鹿角製刀子柄(3・4, 7世紀) [1・2 小林 1943, 3・4 上原編 1993]

⑨

表6 単位面積あたりの石器・鉄器出土数一覧表

遺跡名	府県名	時期	調査面積(m ²)	鉄器出土数	点数/100 m ²	石器出土数	点数/100 m ²	備考
奈カリ与	兵庫県	中期後葉	13,500	21	0.16	195	1.4	
有鼻	兵庫県	中期後葉	36,700	13	0.035	711	1.9	
古曾部・芝谷	大阪府	後期初頭~中葉	37,500	20	0.053	50	0.1	
観音寺山	大阪府	後期初頭~中葉	20,000	18	0.056	138	0.7	
表山	兵庫県	後期初頭	5,198	3	0.058	2	0.04	
六条山	奈良県	後期前葉~後葉	7,000	1	0.014	2	0.03	
船岡山	和歌山県	後期前半	24,000	7	0.029	17	0.07	
三井岡原	奈良県	後期後半	1,500	2	0.13	2	0.13	
塩壺西	兵庫県	後期後葉~終末期	19,000	6	0.031	11	0.06	
東山	大阪府	中期~後期	6,100	2	0.033	52	0.85	中期中葉~
五斗長垣内	兵庫県	後期前葉~後葉	17,884	127	0.71	32	0.18	
下田	大阪府	後期後半~古墳初頭	8,300	0	0	0	0	
尺度	大阪府	中期~後期	17,978	0	0	0	0	
木津城山	京都府	後期	10,400	0	0	0	0	

⑩

	竪穴建物数	時期	打製石鏃	畿内式打製尖頭器	磨製石包丁	打製石包丁	大型蛤刃石斧	柱状片刃石斧	扁平片刃石斧	石鏃	スクレーパー類	砥石	敲石・磨石	台石
百聞川兼基遺跡	6	中期後葉	15	1	0	13	1	0	0	0	7	9	6	0
用木山遺跡	*124	中期後葉	1228	17	26	155	72	1	10	20	5	69	83	1
菰池遺跡	6	中期後葉	30	4	0	14	2	1	0	1	29	17	8	4
百聞川原尾島遺跡	26	後期	27	0	0	2	0	0	0	2	2	14	3	0
奥坂遺跡	13	後期	5	0	1	2	1	0	0	1	5	16	4	0

吉備地域の石器組成



図1 五斗長垣内遺跡の位置

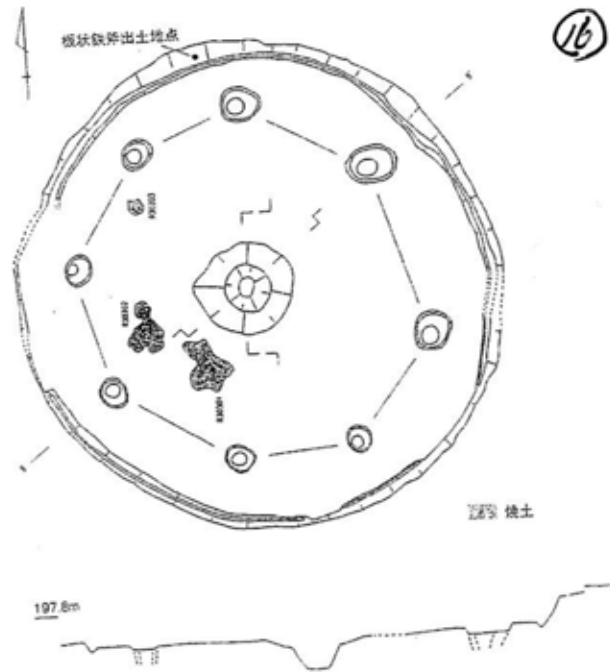


図1 五斗長垣内遺跡の鍛冶関係遺構

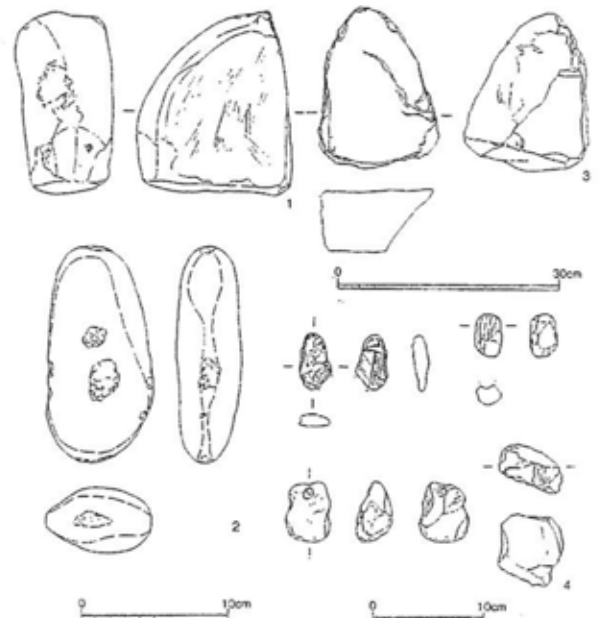


図2 五斗長垣内遺跡の鍛冶関係遺物
1 砥石 2 敲石 3 台石 4 焼けた粘土塊

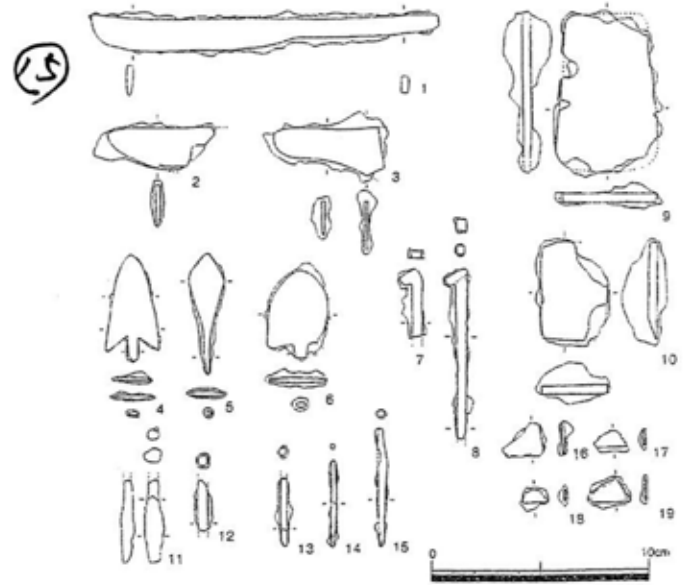


図5 観音寺山遺跡の鉄器

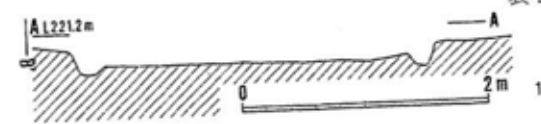
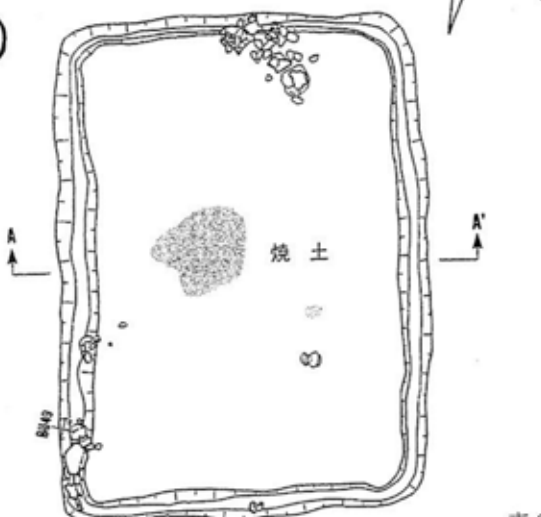


図4 焼土面をもつ竪穴建物2
1 奈カリ与遺跡 2 中津原遺跡

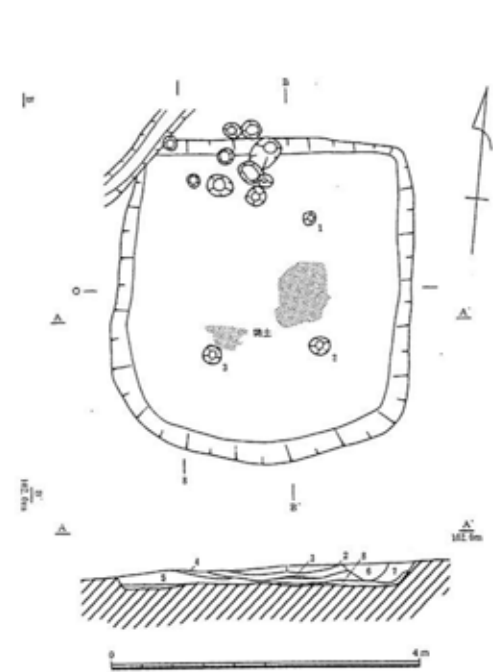


図14 鉄器製作遺構の可能性のある竪穴建物等実測図(4)古曾部・芝谷遺跡住居 S11 平・断面図(高槻市教委 1996)

遺跡名	時期	石製鍛冶具						粘土塊	備考
		砥石等	砥石	台石	三角形	棒状	不定形		
SH203	III期	●	●				●		
SH205	II期	●	●	●			●	1/2以上が未調査	
SH301	IV期				●		●		
SH302	V期	●	●	●			●		
SH303	IV期	●	●	●			●		
SH304	III~V期	●	●	●			●		
SH306	V期	●	●	●			●	● 1/2が削平	
SH307	III期							3/4が未調査	
SH308	V期	●						1/2が未調査	
SH309	V期			●		●		SH308に切られている	
SH313	IV期							● 1/2が未調査	
SH316	V期			●				● 1/3が削平	

表2 五斗長垣内遺跡焼土面を持つ竪穴建物出土遺物(淡路市教委 2011 から作成)

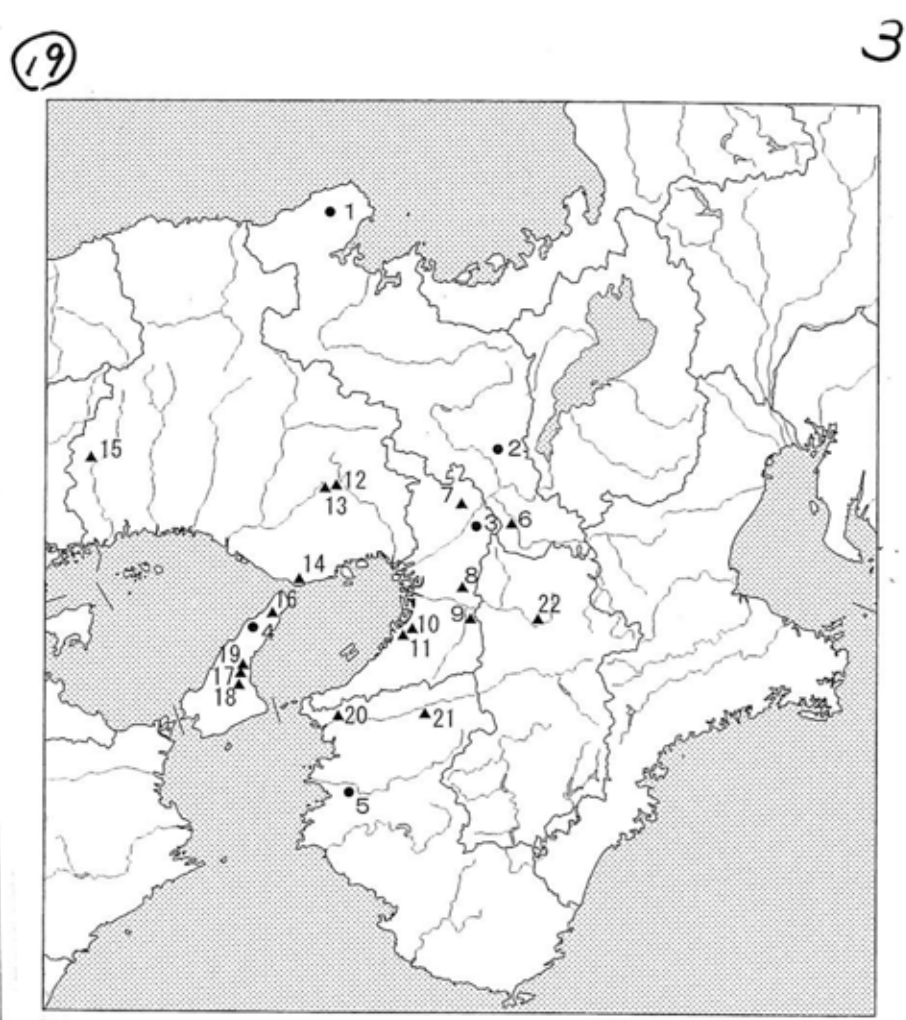


図17 近畿地方鉄器製作遺跡分布図(福宜田 2013b を改変)
● 発掘調査で鉄器製作遺構(鍛冶炉)を確認した遺跡
▲ 発掘終了後、発掘報告書の内容等から鉄器製作遺構の可能性のある遺跡

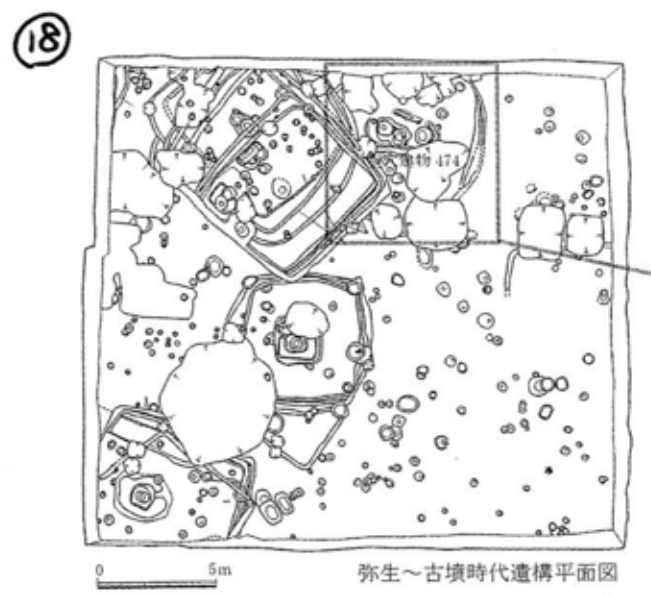
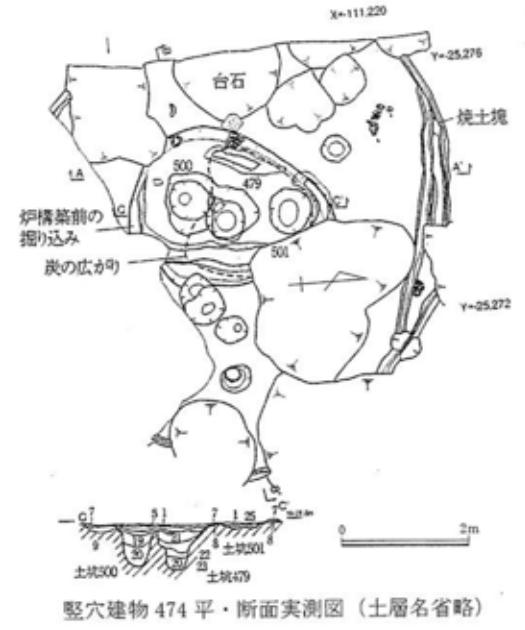
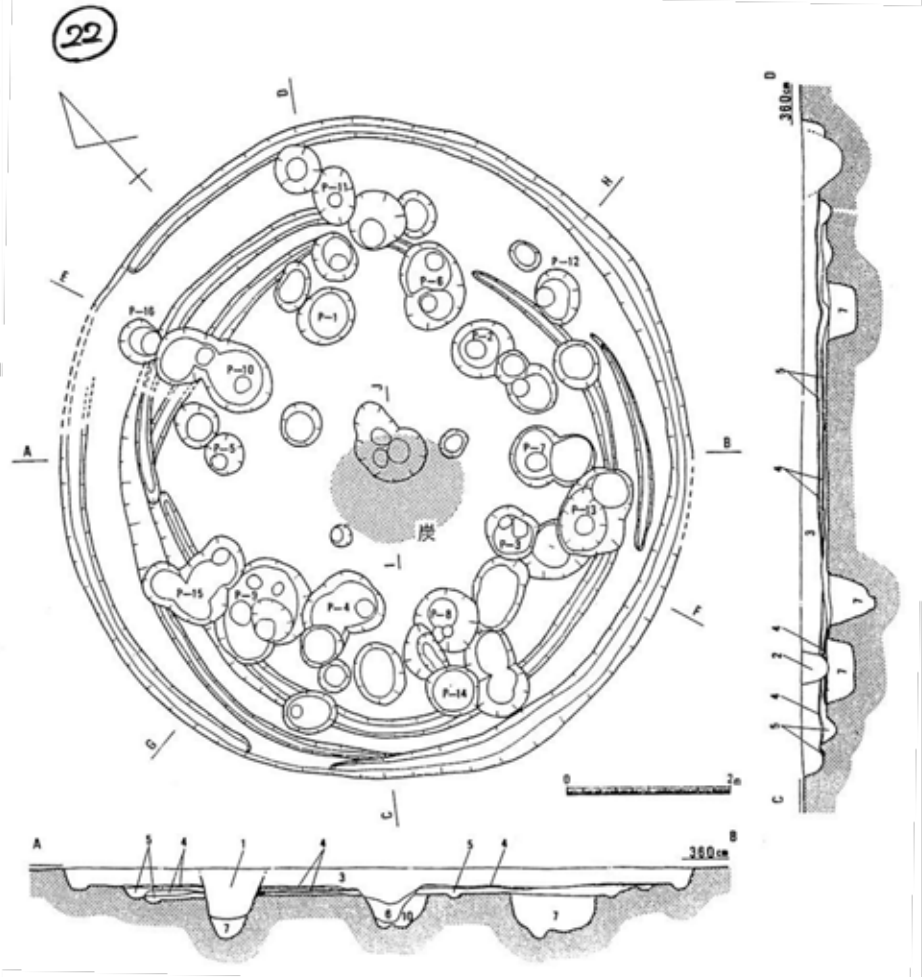
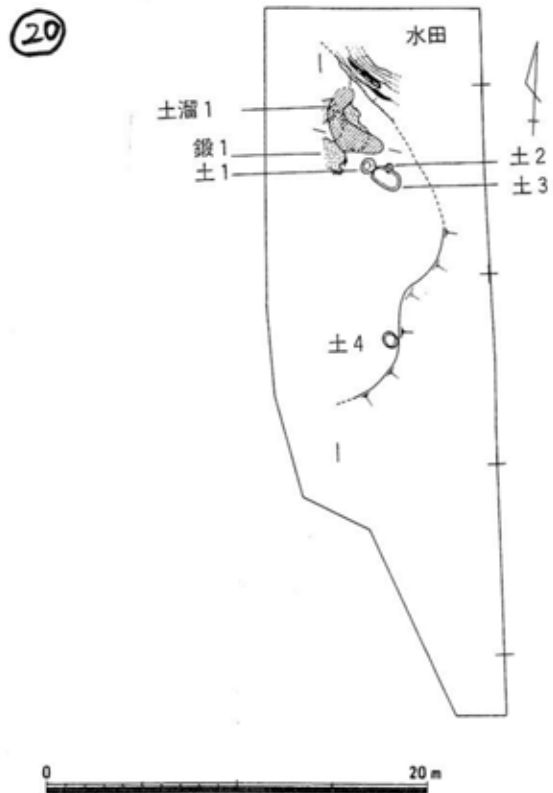


図9 鉄器製作遺構実測図(5)(西京極遺跡、柏田 2009)

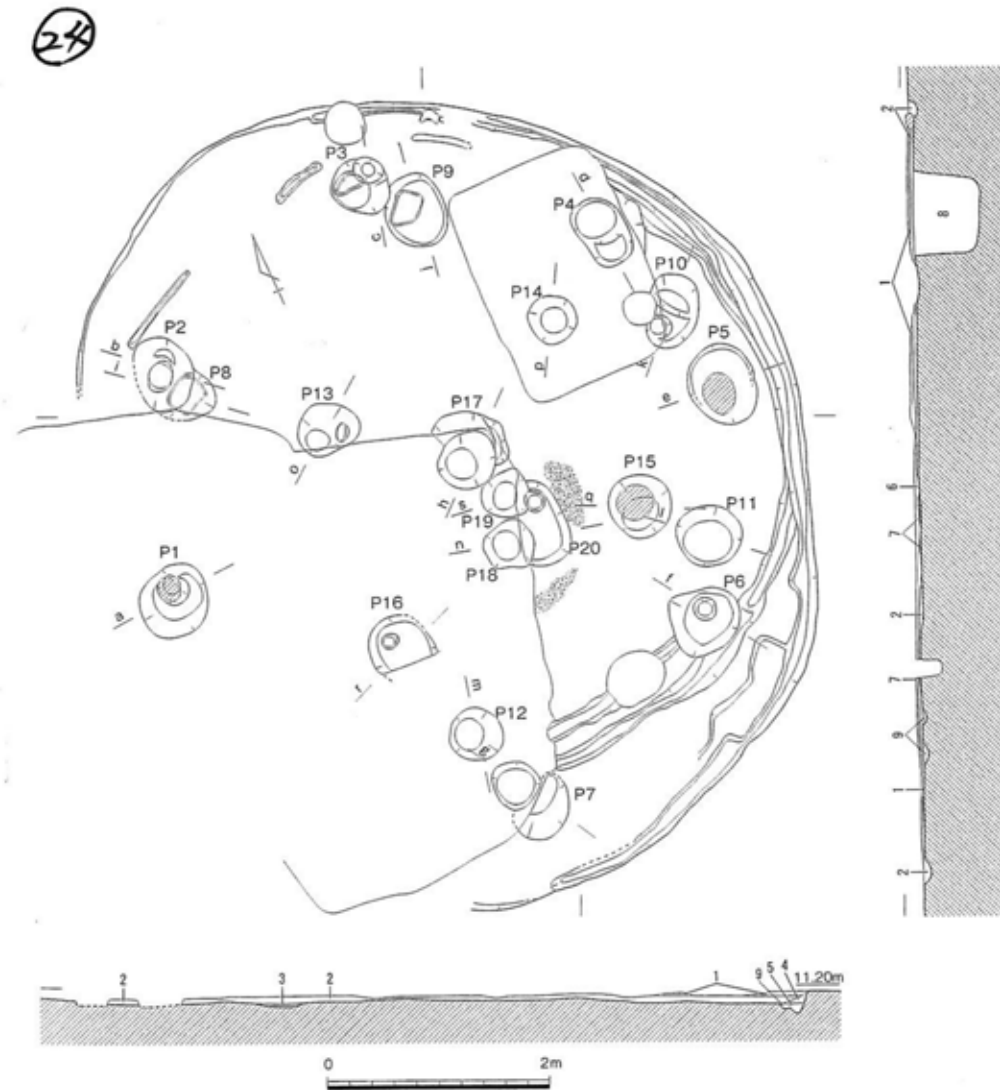


竪穴建物 474 平・断面実測図(土層名省略)



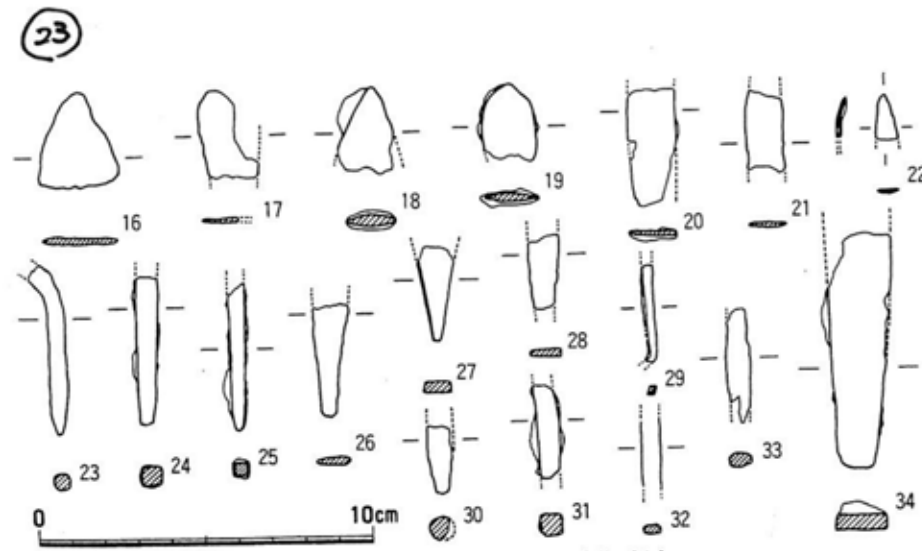
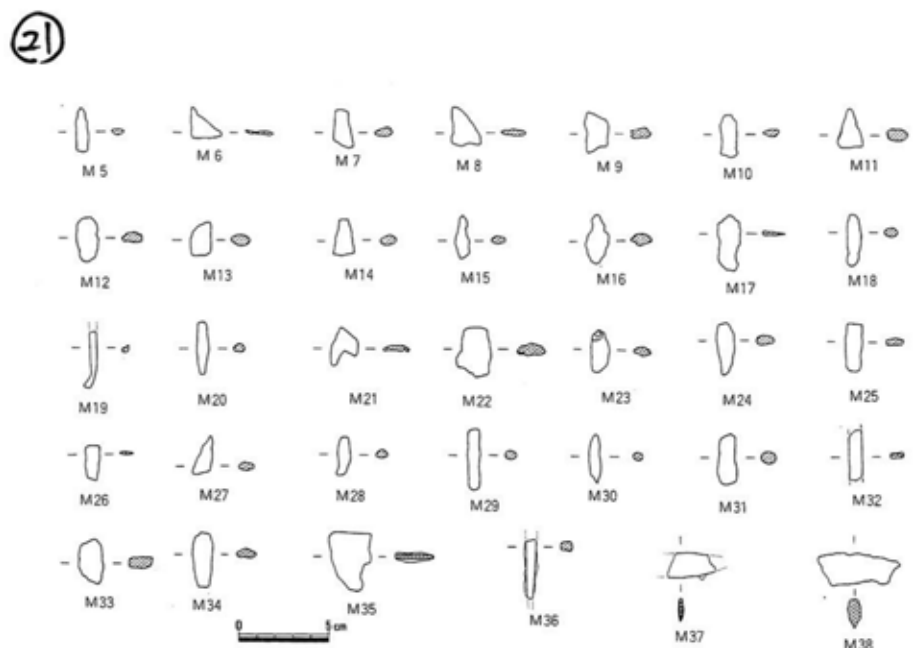
1. 土壙-27 2. 中世の柱穴 3. 暗茶褐色土(炭・焼土粒を含む) 4. 貼床(黄褐色土)
5. 暗灰褐色土(炭・焼土粒を含む) 6. 暗灰色粘質土 7. 暗灰色粘土と黄褐色ブロック土の混在
8. 炭 9. 灰色粘土 10. 暗灰色粘土(炭・焼土・黄褐色ブロック土を含む)

第42図 竪穴式住居-16 (1/80)



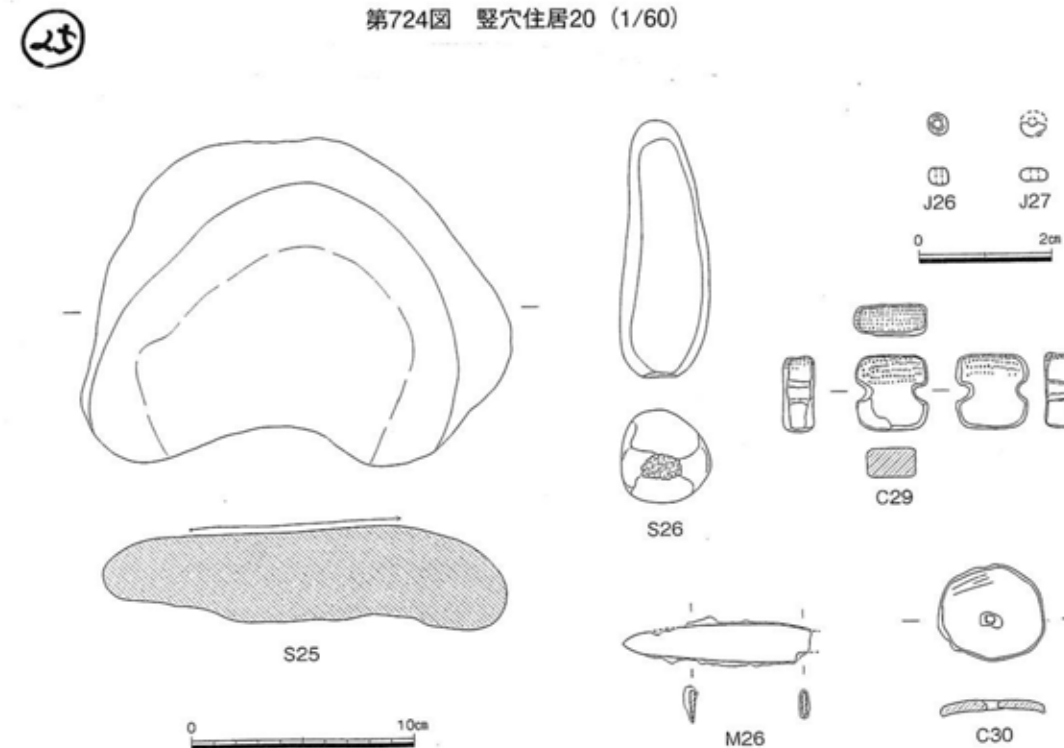
1 灰黄褐色(10YR4/2)細砂 4 褐灰色(10YR4/1)細砂(焼土粒多含) 7 炭層
2 褐灰色(10YR4/1)細砂 5 褐灰色(7.5YR4/1)細砂(壁体溝) 8 (P9)
3 褐灰色(10YR5/1)細砂 6 明黄褐色(10YR6/6)微砂(貼り床) 9 灰黄褐色(10YR4/2)細砂

第724図 竪穴住居20 (1/60)



第44図 竪穴式住居-16 出土遺物(2)

百間川原尾島遺跡



第728図 竪穴住居20出土遺物
刑部遺跡

津寺-軒屋遺跡

26

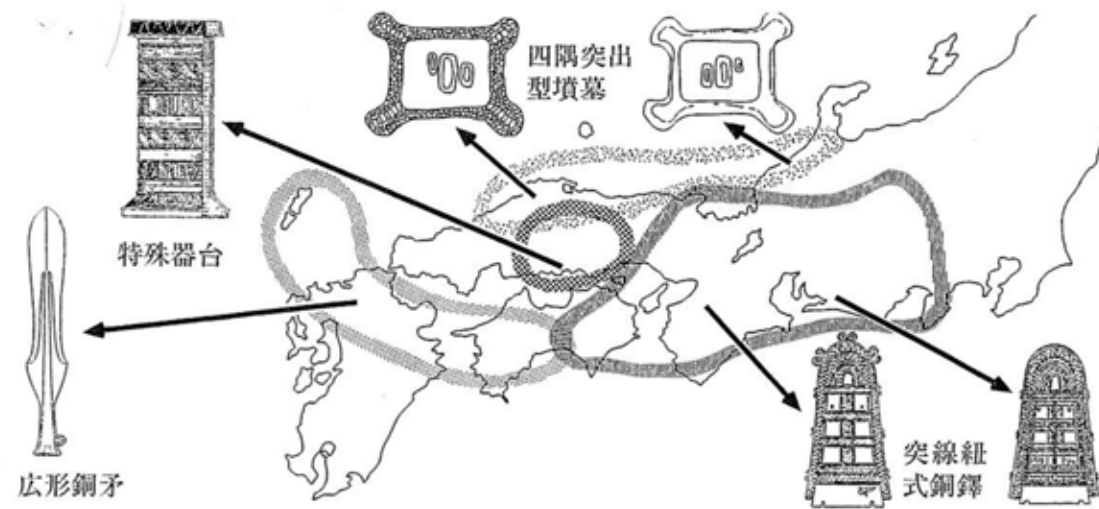
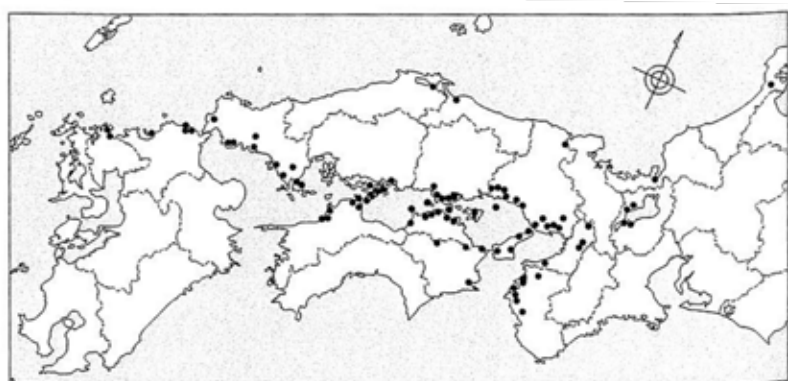


図23 地域首長連合のシンボル

(福永作成)

27

●紀元前後の高地性集落の分布
九州から近畿にかけての瀬戸内海沿いに、とくに濃密に分布する。瀬戸内海の交通ルートの動静が大きな関心事になったことの反映だろう。(柴田昌見「高地性集落と山住みの集落」より作成)



(松木作成)

28

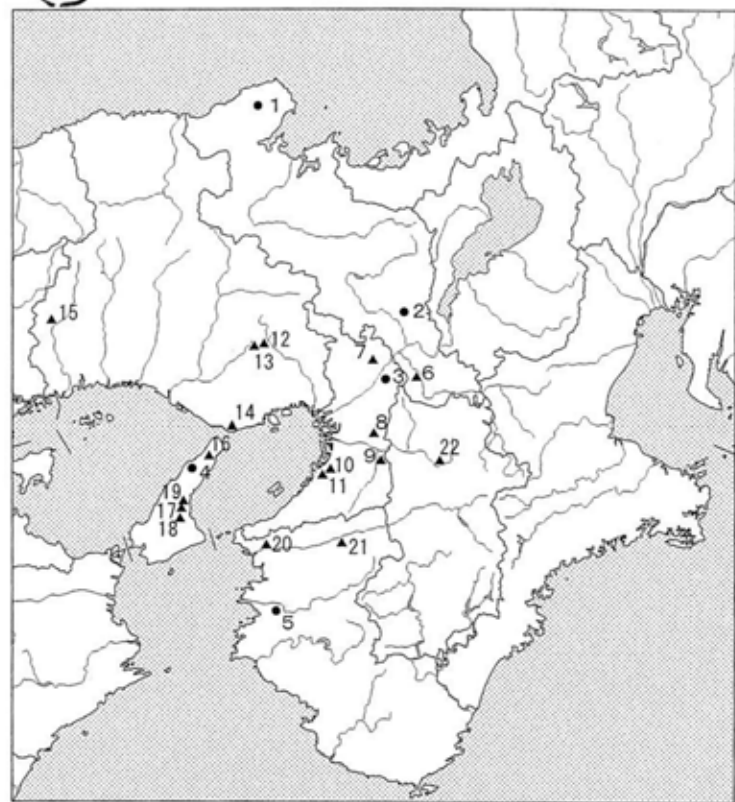


図17 近畿地方鉄器製作遺跡分布図(綱直田2013bを改変)

● 発掘調査で鉄器製作遺構(鍛冶炉)を確認した遺跡
▲ 発掘終了後、発掘報告書の内容等から鉄器製作遺跡の可能性のある遺跡

29

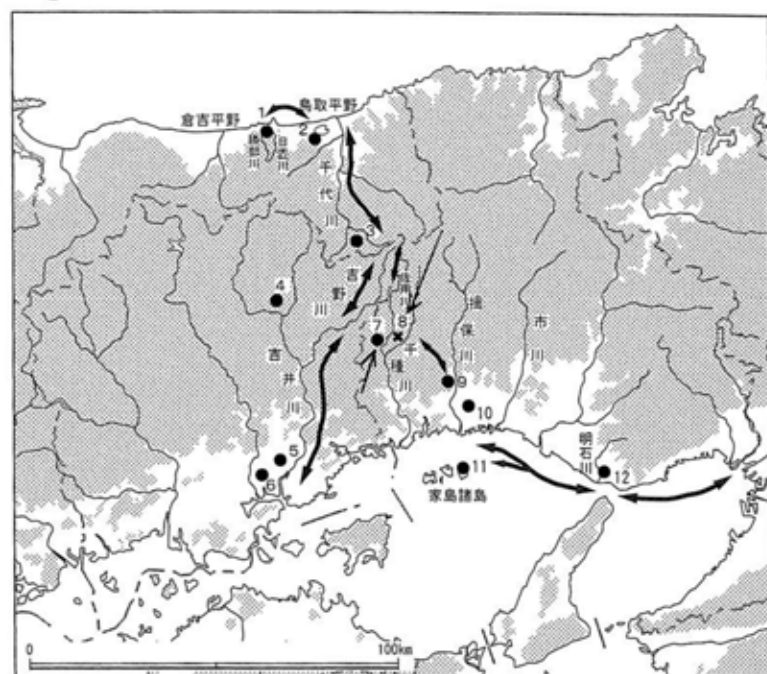


図10 播磨・吉備地域と因幡地域を結ぶルート復元図

30

関連年表

前二二〇	前二一〇	前二〇〇	前一九〇	前一八〇	前一七〇	前一六〇	前一五〇	前一四〇	前一三〇	前一二〇	前一一〇	前一〇〇	前九〇	前八〇	前七〇	前六〇	前五〇	前四〇	前三〇	前二〇	前一〇	前〇	
西	晋	三	国	後	漢	新	漢	前	漢	漢	漢	漢	漢	漢	漢	漢	漢	漢	漢	漢	漢	漢	漢
八王の乱が始まり、華北混乱	西晋が呉を滅ぼし、天下統一	魏が蜀を滅ぼす	魏滅亡、晋(西晋)が興る	魏が蜀を滅ぼす	晋が呉を滅ぼし、天下統一	晋が呉を滅ぼし、天下統一	晋が呉を滅ぼし、天下統一	晋が呉を滅ぼし、天下統一	晋が呉を滅ぼし、天下統一	晋が呉を滅ぼし、天下統一	晋が呉を滅ぼし、天下統一	晋が呉を滅ぼし、天下統一	晋が呉を滅ぼし、天下統一	晋が呉を滅ぼし、天下統一	晋が呉を滅ぼし、天下統一	晋が呉を滅ぼし、天下統一	晋が呉を滅ぼし、天下統一	晋が呉を滅ぼし、天下統一	晋が呉を滅ぼし、天下統一	晋が呉を滅ぼし、天下統一	晋が呉を滅ぼし、天下統一	晋が呉を滅ぼし、天下統一	

西晋の衰退
後漢の衰退
前漢の衰退
武帝の膨張政策

高句麗	楽浪・帯方郡	楽浪郡	大楽浪郡	朝鮮四郡	衛氏朝鮮
高句麗が遼東郡西安平県を奪取し、楽浪、帯方郡が孤立	幽州刺史の母丘俊が高句麗に連征、九郡城を攻め、母丘俊の再連征に伴い楽浪太守と帯方太守が漢を討つ	司馬懿が公孫淵を倒し、魏が楽浪郡と帯方郡を回復	遼東太守の公孫康が楽浪郡の南を分割して帯方郡を設置	王調の乱がおこり、楽浪郡が独立状態となる	朝鮮半島東北部に番海郡を設置(2年で廃止)

古墳時代	弥生時代
倭の女王が晋に使いを送る	倭国王が晋に使いを送り、光武帝から印綬を賜わる
二六六	一〇七

(弥生博作成)